

2020年12月期 第2四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2020年8月12日

上場会社名 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2579 URL <https://www.ccbj-holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) カリン・ドラガン
 問合せ先責任者 (役職名) 財務本部 コントローラーズ (氏名) コーデュラ・トーマス TEL 03-6896-1707
 シニアグループ統括部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満四捨五入)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		事業利益		営業利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	386,679	△10.8	△5,539	-	△13,110	-	△6,462	-	△6,452	-	△11,504	-
2019年12月期第2四半期	433,710	△3.2	4,122	△64.4	△65,457	-	△64,537	-	△64,565	-	△63,537	-

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	△35.97	-
2019年12月期第2四半期	△358.14	-

※事業利益は、事業の経常的な業績をはかるための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものであります。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	974,323	491,170	490,715	50.4
2019年12月期	952,444	506,491	505,999	53.1

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	-	25.00	-	25.00	50.00
2020年12月期	-	0.00	-	-	-
2020年12月期(予想)	-	-	-	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		事業利益		営業利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2020年12月期通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業活動への影響を精査中であり、最盛期の第3四半期（7-9月）の業績見通しが明らかになり次第、速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期2Q	206,268,593株	2019年12月期	206,268,593株
② 期末自己株式数	2020年12月期2Q	26,918,523株	2019年12月期	26,917,320株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期2Q	179,350,582株	2019年12月期2Q	180,280,315株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想とは大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、〔添付資料〕5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(セグメント情報)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で拡大する中、当社は、顧客のみなさまに日常生活に必要な不可欠な製品・サービスの提供を継続し、また、日々働いている従業員の安全と健康を確保していくことを最優先としています。また、私たちのミッションに基づいて、すべての人にハッピーでさわやかなひとときをお届けすべく、包括的な対策を行いつつ、安全・安心な製品の供給を継続すべく事業活動を行っております。

当第2四半期連結累計期間(2020年1月1日～6月30日、以下「上期」)における国内の清涼飲料市場は、COVID-19の感染拡大防止に向けた政府の緊急事態宣言の発令等による休業要請や外出自粛の影響を受け、市場は累計で前年同期比1割程度縮小したものと見込まれます。健康食品および化粧品市場におきましては、消費者の健康志向や新たな機能・効能への需要増等により市場の拡大傾向は続いておりますが、COVID-19による影響を受けたものと見込まれます。

このような中、当社は中期計画の「これまでのやり方は選択肢にない」の方針のもと、重要なベンディングチャネルや間接部門を含むコスト構造の変革、製造能力の向上や売場の拡大といった顧客志向の投資や人材能力開発への投資を増加させるなど、持続的な成長軌道への回帰に向けビジネスの抜本的改革を推し進めております。また、COVID-19の感染拡大に端を発する事業環境の急変への迅速な対応や即効性のあるコスト削減に注力するとともに、飲料事業のコスト構造や高い固定費構造の変革を継続してまいりました。さらに、事業環境の急変を機に、現在進めている変革の取り組みを前倒しで実行しつつ、新たな機会を特定し、中長期的な事業環境の変化に備えた対応を進めております。

上期の業績は、COVID-19の感染拡大の影響で3月以降飲料事業の販売数量が大きく減少し、特に第2四半期(4～6月)は緊急事態宣言の発令もあり、当連結会計年度において最も厳しい四半期となったことが見込まれ、以下のとおりとなりました。

なお、2020年8月13日(木)午後1時30分より開催の決算説明会資料を当社ホームページ(<https://www.ccbj-holdings.com/ir/library/presentation.php>)に掲載しておりますので、本決算短信の定性的情報と併せてご参照ください。決算説明会のライブおよびオンデマンド配信も当社ホームページにて提供しております。

当第2四半期のハイライト

- ・第2四半期に緊急事態宣言やオリンピックの延期決定等の影響を受け、飲料事業の販売数量は第2四半期18%減、上期11%減。「檸檬堂」は計画を上回って順調に推移
- ・手売り市場シェアは、金額シェアと数量シェアの適切なバランスを維持。納価維持に努めたことや、コア製品への注力とオリンピックに重点を置いた計画からの変更により前年同期比微減。ベンディングは、COVID-19で市場の落ち込みが激しい中、シェア拡大基調を維持
- ・大幅なコスト削減により今期のトップライン影響を一部相殺。上期で約100億円以上のコスト削減を実行し、下期もコスト削減の取り組みを継続
- ・重要なベンディングチャネルのオペレーション構造変革を前倒しで実行。当社全エリアへの展開を6カ月間、上期末までに完了
- ・最新設備の広島工場が完成。今年稼働した4ラインを含め、昨年来進めていた新製造設備7ラインすべてが稼働し、供給体制強化の取り組みが計画通り完了
- ・通期計画の公表に向け、夏の最盛期のビジネス状況を、COVID-19感染拡大再燃や7月の長雨の影響も踏まえて精査中。期末配当は1株あたり25円を予定することを発表

業績の概要

国際財務報告基準

上期(1-6月)

(単位:百万円、販売数量を除く)

	2019年	2020年	増減率
売上収益	433,710	386,679	△10.8%
売上総利益	210,246	179,259	△14.7%
販売費及び一般管理費	205,202	183,899	△10.4%
その他の収益(経常的に発生した収益)	560	385	△31.3%
その他の費用(経常的に発生した費用)	1,457	1,054	△27.6%
持分法による投資利益(△は損失)	△24	△230	－%
事業利益(△は損失)	4,122	△5,539	－%
のれんの減損損失	61,859	－	△100.0%
その他の収益(非経常的に発生した収益)	1,240	0	△100.0%
その他の費用(非経常的に発生した費用)	8,960	7,571	△15.5%
営業損失(△)	△65,457	△13,110	－%
親会社の所有者に帰属する四半期損失(△)	△64,565	△6,452	－%
飲料事業 販売数量(百万ケース)	237	212	△11%

(参考) 第2四半期(4-6月)

(単位:百万円、販売数量を除く)

	2019年	2020年	増減率
売上収益	234,978	187,964	△20.0%
売上総利益	115,644	85,841	△25.8%
販売費及び一般管理費	107,062	84,253	△21.3%
その他の収益(経常的に発生した収益)	267	157	△41.0%
その他の費用(経常的に発生した費用)	657	580	△11.8%
持分法による投資利益(△は損失)	△10	△170	－%
事業利益	8,182	995	△87.8%
のれんの減損損失	61,859	－	△100.0%
その他の収益(非経常的に発生した収益)	1,240	－	△100.0%
その他の費用(非経常的に発生した費用)	195	6,223	3,086.5%
営業損失(△)	△52,633	△5,228	－%
親会社の所有者に帰属する四半期損失(△)	△56,563	△761	－%
飲料事業 販売数量(百万ケース)	127	104	△18%

*事業利益は、事業の経常的な業績をはかるための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

上期の連結売上収益は386,679百万円(前年同期比47,031百万円、10.8%減)となりました。飲料事業では、COVID-19の感染拡大や政府の緊急事態宣言発令等により、3月以降販売数量が減少したこと等により、売上収益は374,598百万円(前年同期比46,806百万円、11.1%減)となりました。ヘルスケア・スキンケア事業の売上収益は、2019年10月にコーポレートロゴとコーポレートスローガンの刷新、主力製品のリニューアル等を実施し、それ以降、新製品の投入や新たな販売チャネルの開拓等に取り組んでまいりましたが、COVID-19の影響等もあり、12,081百万円(前年同期比225百万円、1.8%減)となりました。

上期の連結事業利益は、5,539百万円の連結事業損失(前年同期の連結事業利益4,122百万円)となりました。飲料事業では、緊急事態宣言の発令等による外出抑制で、バンディングやコンビニエンスストアチャネルの販売数量減少によるチャネルミックス悪化等により、売上総利益が減少しましたが、人件費や販促費、間接部門などあらゆる分野で徹底的なコスト削減を実施し、事業損失は7,368百万円(前年同期の事業利益2,523百万円)となりました。ヘルスケア・スキンケア事業では、コスト削減や効果的な販促費の投下に努めたことにより、事業利益は1,829百万円(前年同期比229百万円、14.3%増)となりました。

連結営業損失は、前年第2四半期にのれんの減損損失61,859百万円があったこと等から、当上期は改善し

13,110百万円（前年同期の連結営業損失65,457百万円）となりました。なお、その他の費用（非経常的に発生した費用）には、前年同期は希望退職プログラムにかかわる特別退職加算金等8,706百万円が含まれており、当上期は第2四半期中に実施した一時帰休に関わる休業手当費用（以下、一時帰休費用）2,841百万円、中期計画に基づく抜本的な変革の実行にかかる事業構造改善費用1,908百万円、特別退職加算金等1,424百万円等が含まれております。なお、一時帰休費用は第3四半期に予定されている雇用調整助成金の受給により一部相殺される見込みです。

親会社の所有者に帰属する四半期損失も前年同期比で改善し、6,452百万円（前年同期の親会社の所有者に帰属する四半期損失64,565百万円）となりました。

飲料事業の販売数量動向

上期の飲料事業の販売数量（増減率は前年同期比）は、中期計画の順調な立ち上がりやアルコール飲料「檸檬堂」の貢献もあり、2月までは前年を上回って推移しておりましたが、COVID-19感染拡大策の影響等を受け3月以降大きく減少し、11%減となりました。第2四半期は、緊急事態宣言下にあった4月、5月が前年同期比2割以上の減少となったこともあり、18%減となりました。

アルコール飲料を除いた清涼飲料の販売数量は、上期は12%減、第2四半期は20%減となりました。清涼飲料のチャネル別の販売数量は、緊急事態宣言に伴う学校の休校、在宅勤務の増加、飲食店等の休業や営業時間短縮、外出自粛の影響を受け、リテール・フードとベンディングチャネルが大きく減少しました。ベンディングは2月まで堅調な出足でしたが、3月以降の販売数量が駅、学校、娯楽施設、オフィス等を中心に大きく減少し、上期の販売数量は15%減となりました。リテール・フードは外食自粛の影響により特にフードチャネルが大きく減少し、32%減となりました。コンビニエンスストアは「コカ・コーラ」など炭酸飲料が健闘するも、特に水の減少が大きく影響し、9%減となりました。一方、来店者数、家庭内消費や備蓄需要の増加により、2月以降ドラッグストア・量販店チャネルの成長が続き、同チャネルは7%増となりました。スーパーマーケットはお客さまの来店頻度や購入スタイル変化等への対応に努めたものの1%減となりました。

清涼飲料の製品カテゴリー別でも、全カテゴリーにおいてCOVID-19感染拡大の影響を大きく受けました。炭酸は、新製品「ファンタプレミアグレープ」等の貢献があり、また、スーパーマーケットやドラッグストア・量販店チャネルで成長したものの、リテール・フードの減少が大きく、9%の減少となりました。無糖茶は、新製品「綾鷹濃い緑茶」の貢献があったものの、10%の減少となりました。コーヒーは、「ジョージアジャパンクラフトマン」や新製品「ジョージアラテニスタ」の貢献等でPETボトルコーヒーは成長したものの、缶やボトル缶製品の減少が響き、8%の減少となりました。スポーツは、市場全体が減少したことや大型PETの不振により19%減、水は、ドラッグストア・量販店チャネルやスーパーマーケットでの家庭内消費や備蓄需要の取り込みにより大型PETは成長したものの、即時消費機会の減少による小型PETのマイナスが響き、10%の減少となりました。

アルコール飲料「檸檬堂」は、2019年10月の当社全エリア展開以降、計画を上回って好調に推移しており、上期の販売数量は422万ケースとなりました。これまでの実績と見通しを踏まえ、今後、供給体制の強化を検討してまいります。

(2) 連結財政状態に関する説明

総資産は、974,323百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,879百万円増加しました。これは主に現金及び現金同等物の増加、最盛期に向けて安定供給を確保するための在庫の積み増し等にもなう棚卸資産の増加、供給能力拡大や店頭での売場増加に向けた戦略投資による有形固定資産の増加、繰延税金資産の増加等によるものです。

負債は、483,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ37,201百万円増加しました。これは主に不透明な環境が続く中、十分な流動性の確保とキャッシュへのアクセスを図るべく、4月に500億円を短期借入れで調達したことにより、社債及び借入金が増加したこと等によるものです。

資本合計は、491,170百万円となり、前連結会計年度末に比べ15,321百万円減少しました。これは主にその他の包括利益の減少や期末配当金の支払いによる利益剰余金の減少によるものです。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況等につきましては、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期損失が13,245百万円となり、棚卸資産やその他の資産の増加、その他の負債の減少、法人所得税の支払等の一方、減価償却費及び償却費、営業債権及びその他の債権の減少、法人所得税の還付等により、11,274百万円の収入（前年同期は9,141百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、供給体制の復旧と製造能力の段階的な拡張に向けた設備投資の実行に

伴う有形固定資産の取得による支出等により、47,697百万円の支出（前年同期は38,820百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、期末配当金の支払いやリース負債の返済による支出等の一方、運転資金への充当を目的とした短期借入金の増加により、41,203百万円の収入（前年同期は27,680百万円の収入）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は前年同期比73,375百万円増加し、118,605百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の通期業績は、飲料事業の最盛期である第3四半期（7－9月）に大きく依存していることから、通期の業績予想につきましては、COVID-19の状況や第3四半期の業績見通しが明らかになり次第、速やかに発表することといたします。

また、期末配当につきましては、資金使途の優先順位やキャッシュ・フロー見通しの精査を踏まえ、1株あたり25円といたしました。詳細につきましては本日発表の「配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	113,825	118,605
営業債権及びその他の債権	98,528	93,026
棚卸資産	74,120	78,032
その他の金融資産	752	620
その他の流動資産	17,587	23,374
流動資産合計	304,812	313,657
非流動資産		
有形固定資産	467,136	477,600
使用権資産	39,629	37,396
のれん	27,021	27,021
無形資産	67,123	66,891
持分法で会計処理されている投資	310	293
その他の金融資産	33,499	27,832
繰延税金資産	6,093	14,897
その他の非流動資産	6,820	8,736
非流動資産合計	647,632	660,666
資産合計	952,444	974,323

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	122,364	113,413
社債及び借入金	17,261	67,094
リース負債	6,634	6,548
その他の金融負債	916	2,206
未払法人所得税等	1,104	1,974
引当金	20	20
その他の流動負債	19,886	14,660
流動負債合計	168,186	205,915
非流動負債		
社債及び借入金	188,487	187,986
リース負債	34,138	32,235
その他の金融負債	—	133
退職給付に係る負債	24,908	26,433
引当金	2,104	2,150
繰延税金負債	24,876	24,849
その他の非流動負債	3,254	3,452
非流動負債合計	277,767	277,238
負債合計	445,953	483,154
資本		
資本金	15,232	15,232
資本剰余金	450,526	450,689
利益剰余金	121,372	110,658
自己株式	△85,649	△85,652
その他の包括利益累計額	4,517	△212
親会社の所有者に帰属する持分合計	505,999	490,715
非支配持分	492	454
資本合計	506,491	491,170
負債及び資本合計	952,444	974,323

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上収益	433,710	386,679
売上原価	223,465	207,420
売上総利益	210,246	179,259
販売費及び一般管理費	205,202	183,899
のれんの減損損失	61,859	—
その他の収益	1,800	385
その他の費用	10,417	8,626
持分法による投資利益(△は損失)	△24	△230
営業損失(△)	△65,457	△13,110
金融収益	501	405
金融費用	557	540
税引前四半期損失(△)	△65,513	△13,245
法人所得税費用	△976	△6,783
四半期損失(△)	△64,537	△6,462
四半期損失(△)の帰属：		
親会社の所有者	△64,565	△6,452
非支配持分	28	△10
基本的1株当たり四半期損失(△)	(円) △358.14	△35.97

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
四半期損失(△)	△64,537	△6,462
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目：		
確定給付制度の再測定	1,785	—
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	△408	△3,377
小計	1,377	△3,377
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△377	△1,665
小計	△377	△1,665
その他の包括利益合計	1,000	△5,042
四半期包括利益	△63,537	△11,504
四半期包括利益の帰属：		
親会社の所有者	△63,566	△11,494
非支配持分	28	△10

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配持分	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 包括利益 累計額			
2019年1月1日残高 (修正表示前)	15,232	450,533	182,418	△72,651	4,915	580,448	458	580,906
I F R S 第16号適用開始による調整	—	—	△338	—	—	△338	—	△338
2019年1月1日残高 (修正表示後)	15,232	450,533	182,080	△72,651	4,915	580,110	458	580,568
四半期包括利益								
四半期損失(△)	—	—	△64,565	—	—	△64,565	28	△64,537
その他の包括利益	—	—	—	—	1,000	1,000	—	1,000
四半期包括利益合計	—	—	△64,565	—	1,000	△63,566	28	△63,537
所有者との取引額等								
剰余金の配当	—	—	△4,587	—	—	△4,587	△22	△4,609
自己株式の取得	—	△64	—	△12,995	—	△13,059	—	△13,059
自己株式の処分	—	△0	—	1	—	1	—	1
株式に基づく報酬取引	—	△2	—	—	—	△2	—	△2
その他の包括利益累計額から利益剰余金への振替	—	—	2,355	—	△2,355	—	—	—
その他の包括利益累計額から非金融資産への振替	—	—	—	—	189	189	—	189
所有者との取引額等合計	—	△66	△2,232	△12,994	△2,166	△17,458	△22	△17,480
2019年6月30日残高	15,232	450,467	115,283	△85,644	3,749	499,087	464	499,551

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配持分	合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 包括利益 累計額			
2020年1月1日残高	15,232	450,526	121,372	△85,649	4,517	505,999	492	506,491
四半期包括利益								
四半期損失(△)	—	—	△6,452	—	—	△6,452	△10	△6,462
その他の包括利益	—	—	—	—	△5,042	△5,042	—	△5,042
四半期包括利益合計	—	—	△6,452	—	△5,042	△11,494	△10	△11,504
所有者との取引額等								
剰余金の配当	—	—	△4,484	—	—	△4,484	△28	△4,512
自己株式の取得	—	—	—	△4	—	△4	—	△4
自己株式の処分	—	△1	—	2	—	1	—	1
株式に基づく報酬取引	—	163	—	—	—	163	—	163
その他の包括利益累計額から利益剰余金への振替	—	—	221	—	△221	—	—	—
その他の包括利益累計額から非金融資産への振替	—	—	—	—	534	534	—	534
所有者との取引額等合計	—	163	△4,263	△3	313	△3,790	△28	△3,818
2020年6月30日残高	15,232	450,689	110,658	△85,652	△212	490,715	454	491,170

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期損失(△)	△65,513	△13,245
調整項目：		
減価償却費及び償却費	28,114	29,387
減損損失	62,109	85
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△471	△67
受取利息及び受取配当金	△308	△288
支払利息	557	540
持分法による投資損失(△は利益)	24	230
有形固定資産売却益	△1,259	△4
有形固定資産除売却損	1,014	760
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△9,355	5,524
棚卸資産の増減額(△は増加)	△15,656	△3,912
その他の資産の増減額(△は増加)	△2,715	△9,821
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	10,860	2,899
退職給付に係る負債(純額)の増減額(△は減少)	△2,148	1,525
その他の負債の増減額(△は減少)	△7,389	△5,404
その他	436	202
小計	△1,702	8,413
利息の受取額	0	0
配当金の受取額	308	287
利息の支払額	△527	△471
法人所得税の支払額	△8,882	△4,651
法人所得税の還付額	1,662	7,696
営業活動によるキャッシュ・フロー合計	△9,141	11,274
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産、無形資産の取得による支出	△42,892	△48,261
有形固定資産、無形資産の売却による収入	2,346	97
その他の金融資産の取得による支出	△27	△26
その他の金融資産の売却による収入	1,683	542
その他	71	△48
投資活動によるキャッシュ・フロー合計	△38,820	△47,697

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	50,000	50,000
長期借入金の返済額	△943	△724
配当金の支払額	△4,587	△4,484
非支配持分への配当金の支払額	△22	△28
自己株式の処分による収入	1	1
自己株式の取得による支出	△13,088	△4
リース負債の返済による支出	△3,681	△3,558
財務活動によるキャッシュ・フロー合計	27,680	41,203
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△20,281	4,780
現金及び現金同等物の期首残高	65,510	113,825
現金及び現金同等物の四半期末残高	45,230	118,605

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループの事業セグメントは、構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会（最高経営意思決定者）が経営資源の配分の決定をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社グループは製品・サービス別に組織運営体制を確立しており、製品の種類・性質、販売市場等をもとに、「飲料事業」および「ヘルスケア・スキンケア事業」の2つを事業セグメントおよび報告セグメントとしております。当社グループは以下の事業を識別しており、報告セグメントを形成していない事業セグメントおよび集約した事業セグメントはありません。

報告セグメント	事業内容
飲料事業	日本におけるコカ・コーラ等の炭酸飲料、コーヒー・紅茶飲料、ミネラルウォーターの仕入、製造・販売、ボトリング、パッケージ、流通およびマーケティング事業、自動販売機関連事業
ヘルスケア・スキンケア事業	「ケール」を原料とする青汁等の製造・販売、健康食品、化粧品等関連商品の製造・販売

取締役会は、各セグメントの業績評価を同業他社と比較して行うために、一般に公正妥当と認められる会計基準（IFRS）に準拠して報告された営業利益に基づいて行っております。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの情報は以下のとおりであります。

なお、前第2四半期連結累計期間の飲料事業において、のれんの減損損失61,859百万円を計上しております。

前第2四半期連結累計期間（自 2019年1月1日 至 2019年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整	合計
	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	報告セグメント合計		
外部顧客への売上収益	421,404	12,306	433,710	—	433,710
セグメント間の売上収益	—	—	—	—	—
売上収益合計	421,404	12,306	433,710	—	433,710
セグメント利益又は損失（△）	△67,057	1,600	△65,457	—	△65,457
調整項目：					
金融収益					501
金融費用					557
税引前四半期損失（△）					△65,513

当第2四半期連結累計期間（自 2020年1月1日 至 2020年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整	合計
	飲料事業	ヘルスケア・スキンケア事業	報告セグメント合計		
外部顧客への売上収益	374,598	12,081	386,679	—	386,679
セグメント間の売上収益	—	—	—	—	—
売上収益合計	374,598	12,081	386,679	—	386,679
セグメント利益又は損失（△）	△14,937	1,827	△13,110	—	△13,110
調整項目：					
金融収益					405
金融費用					540
税引前四半期損失（△）					△13,245